Nozawa English Workshop と私

2016 年 11 月 6 日

野澤裕子

「先生も、百歳まで続けてください」Y ちゃんが言った。
『TOTTO-CHAN』を読んでいて、テレビの「徹子の部屋」で黒柳徹子さんが「私は百歳までこの番組をやるつもりです」と言っていたことが話題になった時のことである。

私は、2000 年に定年退職し、2001 年に「寺島メソッド」での英語塾 Nozawa English Workshop をスタートさせた。在職中には出来なかったことも思う存分やってみたいと色々構想を練った。そして四つの「マラソン」、①リズム読みマラソン②リーディグ・マラソン③ライティング・マラソン④ロック＆ポピュラーソング・マラソン、と呼ぶ勉強形式で、学ぶ人が自分なりの速度で作業を進める「workshop＝作業所」にしようと位置づけた。

新聞折り込みやポスティングの宣伝で来塾された方は４名､それぞれの応募理由の欄には「学習方法のバリエイション、家から近い」「英語の基礎力をつけたい」「場所が近く興味があった」「英語らしい発音がしたい、読みたい」などと書かれていた。私の著書『授業はドラマだ』を読んで「自学自習で楽しく学べそう、落ちこぼれでもできそうなので」と来られた方が１名いた。その他の２５名は「口コミ」で聞き知った方々で、延べ３０名が塾生になった。

これまで１周年、２周年、５周年、７周年、１０周年などの節目ごとに「記念発表・交流会」を開催した。３周年を記念しては、海外でのホームステイに取り組んだ。それぞれの行事の特徴的な点を挙げてみる。

〈１周年〉･･･2002 年 3 月 24 日「記念発表・交流会」開塾 6 か月後の 2001 年 9 月 11 日、アメリカでの同時多発テロ事件勃発、ブッシュ大統領への英文抗議文、2002 年 1 月浅草寺で外国人からもらった 16 通のピース・メッセージを展示、平和を願う思いは私たちと同じ／S さんの絵本での『The Big Turnip』発表は素晴らしかった！

〈2 周年〉･･･2003 年 7 月 5 日「記念発表・交流会」１年目の方たちと 2 年目の方たちと競い合うようなリズム読みや大型絵本や絵の張り紙を使っての発表『The Big Turnip』『There’ｓa Hole』『The House That Jack Built』『The Great Dictator』／K さんのスペイン旅行の英文感想文朗読は素晴らしかった！

〈3 周年〉･･･2004 年 12 月 2 日～9 日「オーストラリアでホームステイ」8 名の参加

で５軒の家庭に分宿／6 日カウラの日本兵捕虜収容所跡・戦争墓地ツアー／M君は現地で 20 歳になり誕生祝賀パーティを開いてもらった！

〈５周年〉･･･2006 年 6 月 11 日「記念発表・交流会」『センとマルでとセンで英語が好き！に変わる本』のイソップ物語１０話から英語で紙芝居、N さん、さすが本領発揮！／3 周年記念オーストラリアホームステイ報告集、映画『卒業』の英文感想文集、海外旅行記、カナダホームステイ報告冊子など発行

〈7 周年〉･･･2008 年 11 月 9 日「記念発表・交流会」表現読み：チャップリンの映画『The Great Dictator』のスピーチ、ドキュメント映画『Dear America』の手紙文、ゲストの岩井先生主宰「ふむふむ英語塾」の皆さんによる『I Have a Dream』／絵を使っての語り『The House That Jack Built』、『Love You Forever』／小学生の『House』と高校生たちの『Dictator』の発表が圧巻！

〈10 周年〉･･･2011 年 12 月 4 日「記念・交流会」color をテーマに表現読み『Crow Boy』『I Have a Dream』『Let America Be America Again』／東日本大震災「３・１１」の後に書いた私たちの英作文の掲示と朗読、それぞれの行動と思いを切々と表現／10 年間に歌った英語の歌を一覧表にして数えてみれば８１曲！！

そして、今年 15 周年となった。折しも Bob Dylan がノーベル文学賞を受賞した。私たちは、すでに 2 周年記念・交流集会で Blowin’ In The Wind を歌っている。

2012 年に Cyndi Lauper の True Colors という歌に出会った。Color がテーマの歌であるだけでなく、彼女が東日本大震災に深く心を寄せている歌手であることを知り、10 周年記念・交流集会の内容にリンクできて嬉しかった。

その後も、『Rock Classics』『ロックで読むアメリカ』『国際理解の歩き方』を使いながら、The Beatles のいくつか、Springsteen のいくつか、Elvis Presley を 12 曲、Sting を 7 曲、Paul Simon をなんと！16 曲も歌って今に至っている。歌手たちの、その時代時代の想いに学びたい。

Asahi Weekly の「会話文」を読んだ後に、自由英作文をしてきたのは、2006 年頃からである。2011 年の３・１１の震災被害を受けた時、誰もが何かしらそれについて書かないではいられなかった。その後も身辺に起こったことや色々な思いを、「瞬発力を発揮して」書いて発表する。writing を通じての自己表現は speaking の力を育て、他の人の発表を聞くことは hearing の力を育てる。

読む作業 reading は、どなたも 10 年内外ここに通い続けているので、前もって英文に記号付けしない場合が多くなっている。しかし、記号をつけてしっかり読むことは、すべての力 writing, speaking, hearing の基礎となるので、時々記号を付ける作業を取り入れている。読むに値する文を賢くキャッチしていきたい。

Nozawa　English　Workshop と私

2016 年 11 月 6 日

黒岩美喜子

私が英語を習い始めたのは 50 代半ばで、その動機は海外旅行の計画があったからです。そこで英語が少し話せたらいいなあと思いました。

まず初めに、住区センターでの英会話サークルに入りました。先生は、外語大の 30 歳くらいの生徒で、日本語も英語も話せるデンマークの女性でした。人生初めて真近かに見る西洋人にどぎまぎしました。英語に接するのは、何十年振りでしょうか。

「I　walk　here.」を聞いて、とっさに walk と work の区別ができず愕然としたものです。何十年かの空白で、ほとんど英語を忘れていました。質問しようにも、私の能力では英文で聞くことができません。また、日本語で形容詞、副詞,　助詞、関係代名詞、分詞、時制などの単語を使って質問すると、今度は先生の方が日本語の文法が分からず、首をかしげるだけでした。ということで外国の先生に教えてもらうには無理があると思いました。昇太曰く「これじゃ駄目ジャン！」ただ、西洋人と接するのには馴れましたけど。

次に、先生が日本人である教室へ行きました。生徒は６～8 人です。今度は日本語で質問できるので楽でした。昔学校で習った英語と現在の英語では、随分変化しているのを知り新鮮さを感じました。例えば、whom は使わない、 must という単語は have to に変わり、発音も〔ハブト〕でなく〔ハフト〕、 woman の発音も〔ウーマン〕は誤りで、〔ウオマン〕ということでした。そして英文は前から順番に訳す、昔は「後ろから訳してきれいな日本語にしなさい」と言われましたが。

しかし、ここでも不満が出てきました。先生の説明ばかりが多く、生徒は順番が回って来た時だけ答える。黙っている時間のほうが長いので、いつまでたっても文章がすらすら読めません。昇太曰く「これじゃ駄目ジャン！」もっと自分の体を使わなくては、上達しないと思いました。

今度は、新聞広告に入っていた野澤先生の「work･･･」という単語を見て「これだ！」と思い、この教室に辿り着きました。英語の歌を沢山習いました。歌が下手な私ですが、友達より英語で歌える歌を沢山持っていることは、私の自慢です。まわらない口で歌を英語で歌っていたら、英文まですらすら読めるようになりました。文法を基本に教えてもらったら、文章の構造がよく理解でき私にはこの勉強方が合っているように思います。今は、hearing と talking の力が大いに不足しています。年齢とともに、英語の勉強の目的は変わってきて、今では脳を活性化し少しでも若さを保つことに変わってきました。

NEW（Nozawa English Workshop）と私

2016年11月6日

青山　愛

私がNEWに通い始めたのは、中学二年生の時でした。今からちょうど十年前になります。教室で最初にしたことは、ペンで机を叩きながら英語の歌の歌詞を音読することでした。最初に覚えた曲は、「We Shall Overcome」でした。繰り返し繰り返し読んで歌うので分かりやすく、訳にもヒントがあって難しいことは一つもありませんでした。

それが良かったのか、私は英語を学ぶということに先入観や億劫さを覚えず、ごく自然に楽しんでいました。歌を覚え、言葉遊びのような英文（There’s a Hole, The Big Turnip, The House That Jack Built）を読み、それを応用して自分で文章を作ることは中学二年生にとっては楽しいことでした。（その様子を含め、高校生になるまでをメルマガ2007年～2008年に「中学生日記」①～⑭として掲載）

毎週ほとんど一対一で付き合い、私の成長期を見守ってくださった野澤先生にはとても感謝しなければなりません。私の高校受験や大学受験の時も、連日の様に通って勉強させて頂き、大変な力になってくださいました。英語が私の中で一つの「好きなもの」であり「自信」になったことに感謝しています。

いろいろなことを吸収できる年頃にここに通えたことは、今思うと意味が大きかったと思います。NEWを知らなければ、私は学生時代に好きな科目に英語をあげなかったでしょう。母の勧めるオーストラリアでのホームステイもしなかったでしょう。ボブ・ディランやポール・サイモンやマライや・キャリー、その他の名曲も知らないまま大人になったかもしれません。私の感性は、全く違う育ち方をしていたかもしれません。

読み物では、大学生の時に『Barefoot Gen』『Life On The Left Toes』などを、それぞれ一年以上という長い時間をかけて読みました。知らない単語はヒントや辞書を見ながらでしたが、これらを読むころには簡単な一文はすらすらと意味が取れるようになっていました。英語を読めることは楽しいと、改めて思いました。通い続けた成果だと思います。

そして、私は2015年3月に大学を卒業しました。私の大学卒業祝いとして野澤先生がプレゼントしてくださった読み物が『Totto-Chan　The Little Girl at the Window』でした。毎週一章をめどに読んで二年近くかかりましたが、保育士としての生活をスタートさせた私にとって、子どもの姿を生き生きと描いたこの作品はとても興味深く勉強になるものでした。実在した「トモエ学園」の自由と自主性を重んじる教育法や、小林先生の子どもに対する温かい思いが、とても印象的でした。そして、トットちゃんこと黒柳徹子さんの子どもらしい突拍子もない行動にも毎回ハラハラ、ワクワクさせられました。

就職先の保育園は家から近く、週末には休みが取れるので、就職しても NEW に通い続けることは決めていました。名曲、名作の深さや様々な人の考え、生き方など、NEW で学べることは本当に多岐に及んでいました。いろいろな題材に触れることが出来、毎週末が楽しみになります。NEW に通うことは私の生活の一部になっていました。

これから先は、私から先生に色々な読み物や英語の曲を紹介して行けたらなぁと思います。現在取り掛かりたいのは、絵本の『Poupelle of Chimney Town』の英訳文を読むことと、セカイノオワリの楽曲「Dragon Night」の英語版を歌うことです。これからも、毎週のワークショップを楽しみにしています。

（追記：上記メルマガ「中学生日記」に登場する、もう一人の中学生藤江景子さんは現在カナダに留学中。演劇を学ぶのが目的とか。帰国後、経験談を聞くのが楽しみである。）